

口永良部島

概 況

火山性地震の発生回数は 98 回と多い状態が続き、また、振幅の小さな火山性微動を 15 回観測するなど地下活動はやや活発な状態で推移しました。

地震・微動活動の状況

A型地震の回数は1日あたり0～8回で月回数は68回(4月：54回)、B型地震は1日あたり0～8回で月回数は30回(4月：43回)とやや多い状態が続きました(図1、図2、図4～7)、振幅の小さな火山性微動を15回(4月：16回)観測しました(図3、図8、図9)。

火口や噴気地帯の状況

5月8日～15日にかけて火山機動調査観測を実施しました。火口現地観測ではこれまでと同様の場所で噴気を確認しましたが3月に実施した上空からの観測結果と比べて特に変化はありませんでした。熱映像装置による噴気地帯の最高温度は57.2(図11～14)でした。また、地震計観測点を1点増設した他(図10)、新たにGPS観測および光波測距観測も実施しました(図10)。

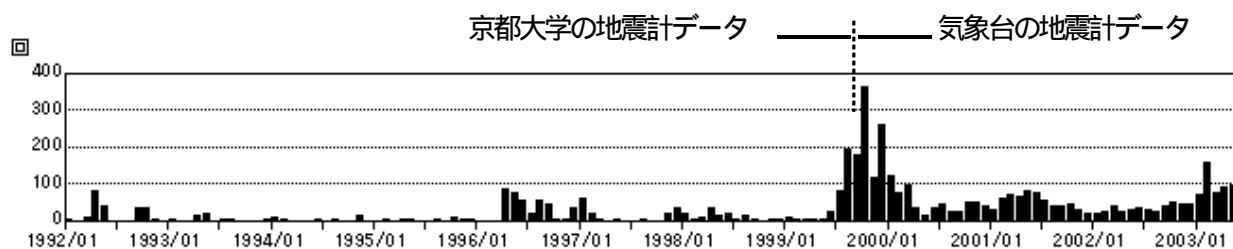


図1 火山性地震の月別回数(1992年1月～2003年5月)
(1999年9月12日までは、京都大学が口永良部島観測点の地震計で計数したデータを利用)

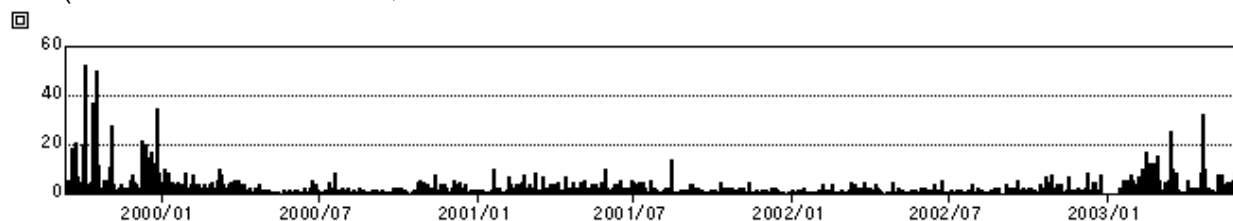


図2 火山性地震の日別回数(1999年9月12日～2003年5月31日)

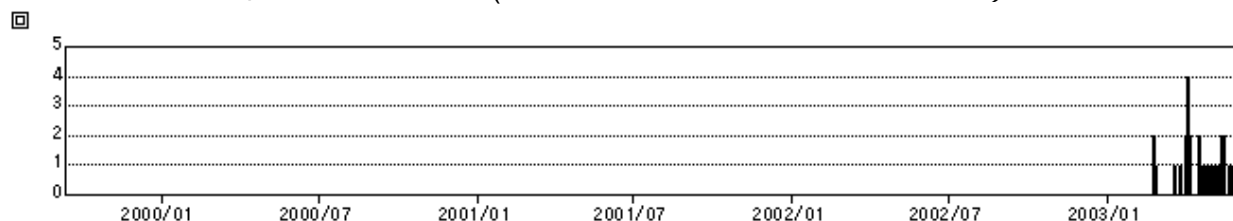


図3 火山性微動の日別回数(1999年9月12日～2003年5月31日)

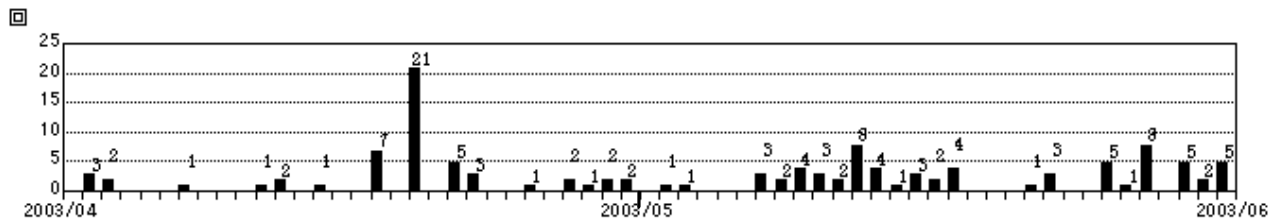


図4 A型地震の日別回数(2003年4月1日～5月31日)

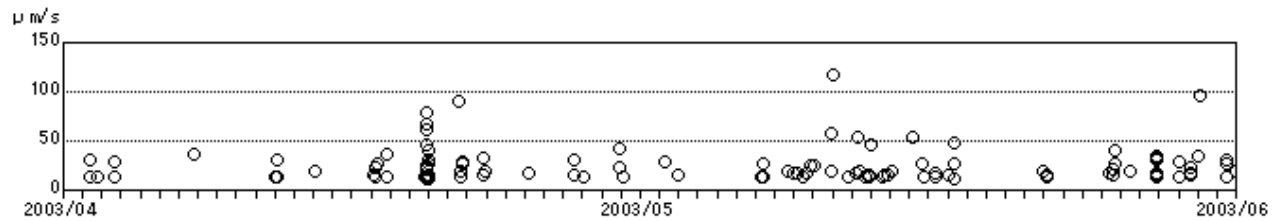


図5 A型地震の最大振幅(上下動)(2003年4月1日～5月31日)

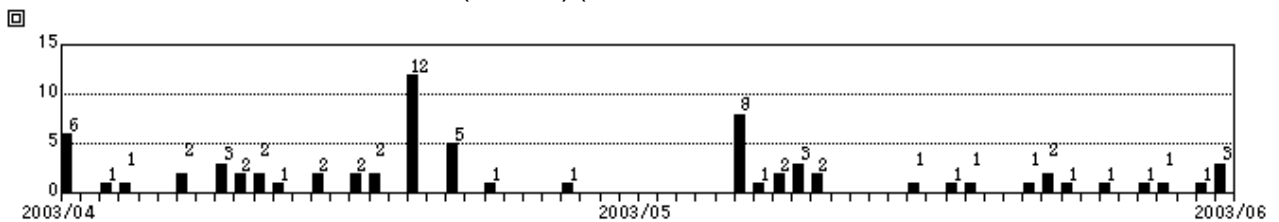


図6 B型地震の日別回数(2003年4月1日～5月31日)

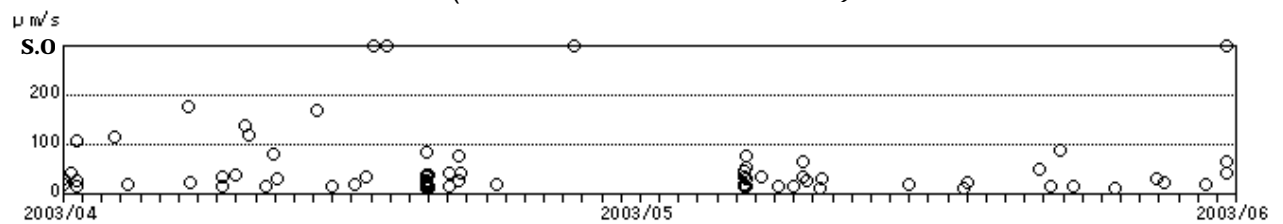


図7 B型地震の最大振幅(上下動)(2003年4月1日～5月31日)

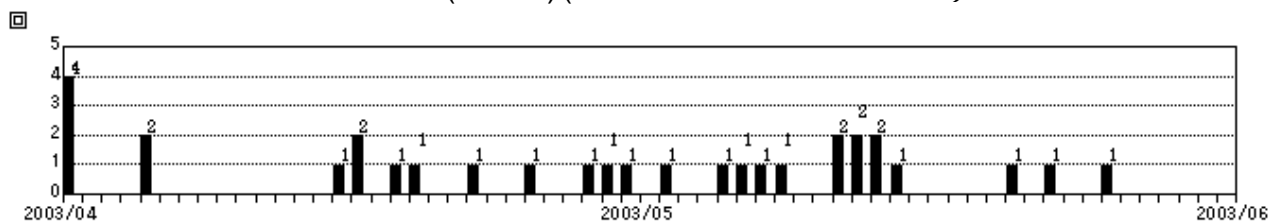


図8 火山性微動の日別回数(2003年4月1日～5月31日)

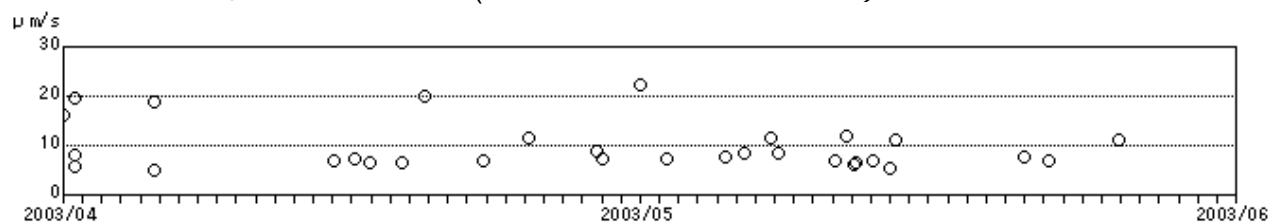


図9 火山性微動の最大振幅(上下動)(2003年4月1日～5月31日)

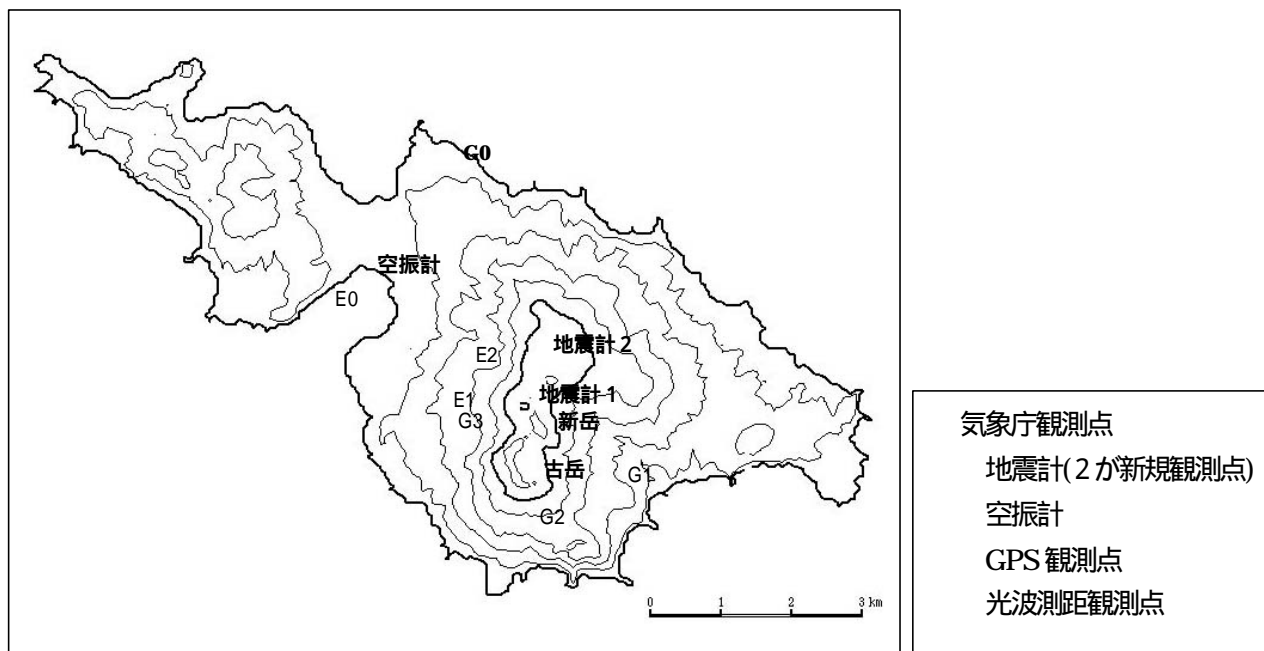


図 10 観測点位置図



図 11 新岳南西側噴気地帯。10m 程度の噴気が見られる。(黒枠は図 12 熱映像の範囲)



図 13 新岳火口底。噴気は見られない。(黒枠は図 14 熱映像の範囲)

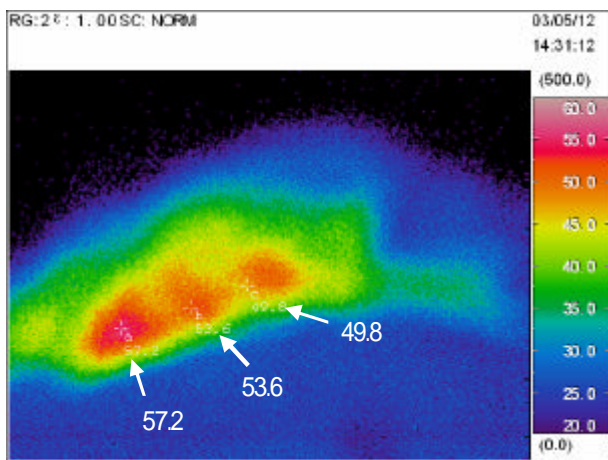


図 12 新岳南西側噴気地帯の熱映像

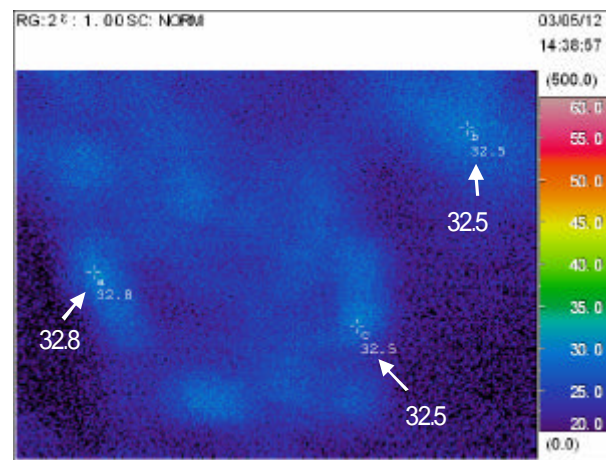


図 14 新岳火口底の熱映像